

我が国の先進的な治水技術 -運用しながらのダム再生-

我が国では、コスト・工期・環境負荷の抑制を可能とする先進的な技術を用い、ダムの再生を進めています。



鶴田ダム

管理開始:1966

再生事業開始:2006



水管理・国土保全局
国土交通省

日本のダム再生技術の特長

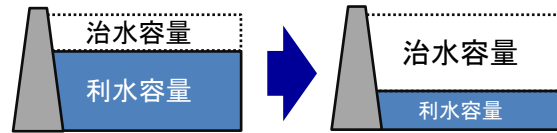
水マネジメント機能の一元化 → 以下のような活動が可能

事業の計画

水資源管理と河川整備計画の作成
流域全体の計画の下の防災投資

利害の調整

災害を契機に利水容量を治水容量に振替



事業の実施

河川改修事業

・堤防整備 ・河道拡幅 ・放水路

ダム事業

・ダム新設 ・ダム再生(洪水調節、水力発電等)

技術の集積

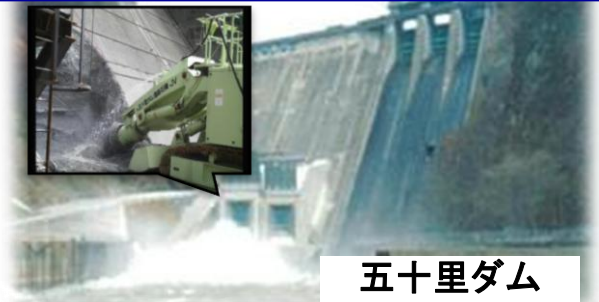
国土技術政策総合研究所及び土木研究所へ所管全ダムのデータを集約

ダム再生の主な技術

海洋技術



削孔技術



トンネル技術



容量の増大 (洪水調節、水力発電等)

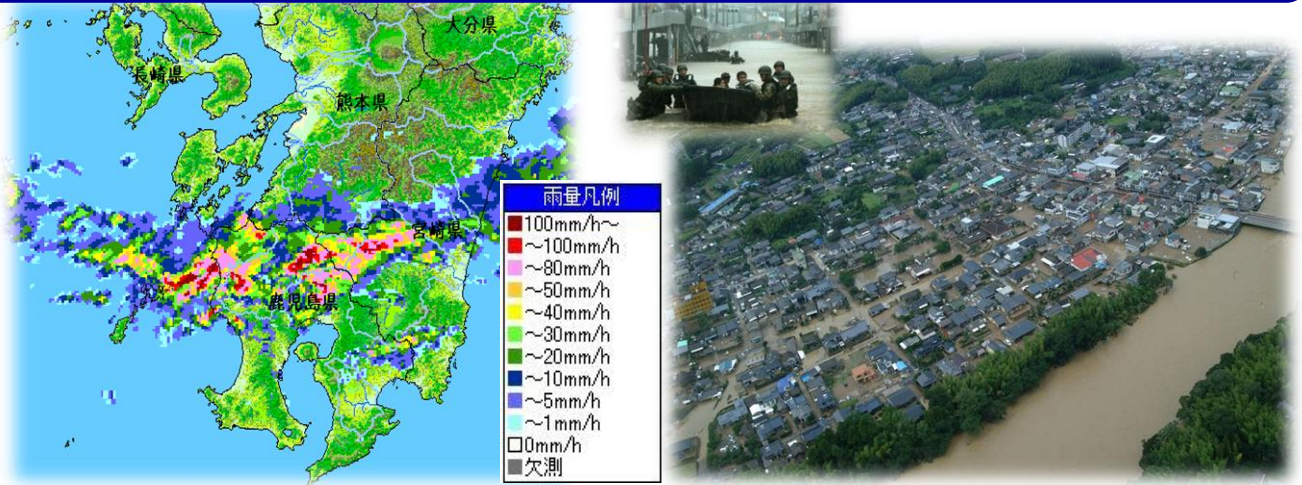


これらのほか、環境対策機能向上、堆砂対策に関する技術・経験も保有しています。

鶴田ダムの再生事業

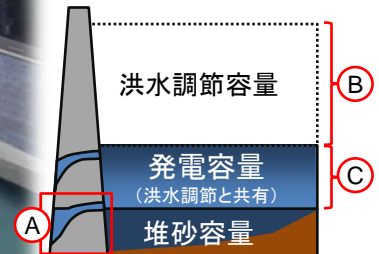
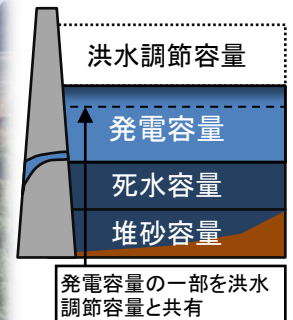
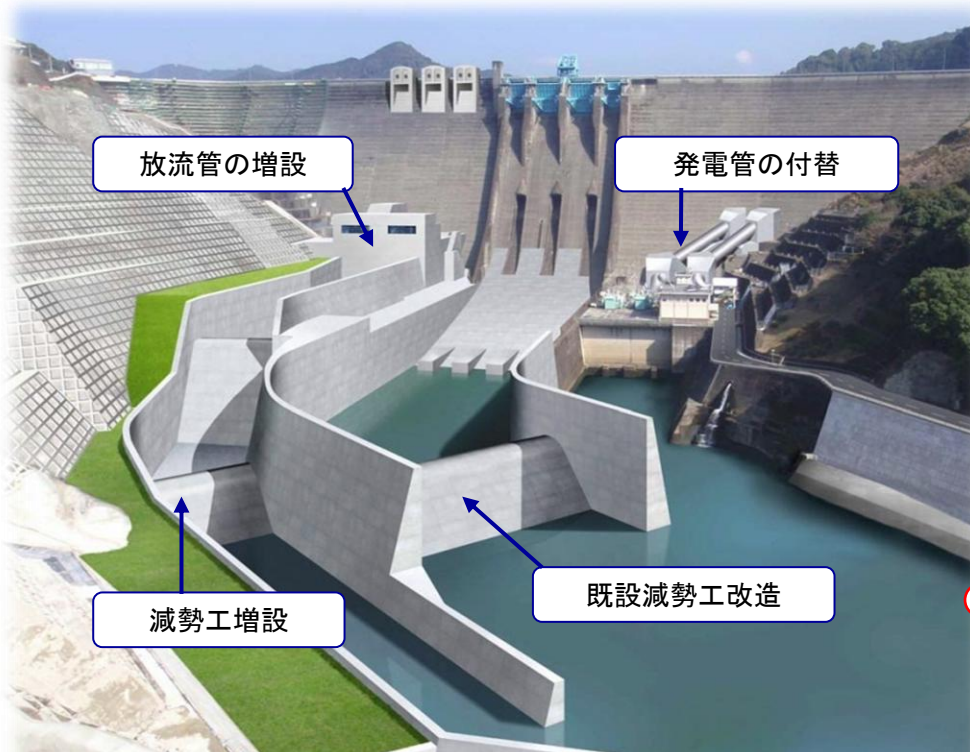
～ダム再生の事例～

鹿児島県の川内川では、2006年7月の記録的な豪雨により、流域全体で約2,777haが浸水し、2,347戸が被害を受ける大規模な水害が発生しました。



これを受け、3ヶ月後の10月より河川改修事業に着手するとともに、5ヶ月後の12月に鶴田ダムの再生事業を採択※しました。

※政府予算案としての採択。着手はH19.4から。



- (A) 放流施設の増設
- (B) 洪水調節専用容量の増加 (発電容量の買い取り)
- (C) 発電容量の全量を洪水調節と共有化 (発電事業者との調整・補償)

既存ダムの機能は維持しながら工事を実施 (海洋技術である潜水工事の技術を活用)

現在国直轄で事業実施中のダム再生事業

Type A1 既設ダムを運用しながら下流にダム新設

Type A2 既設ダムを運用しながら嵩上げ

Type B1 既設ダム堤体に放流管を増設

Type B2 既設ダム脇に放流トンネルを増設

Type C 既設ダムの堆砂対策により容量を確保



【お問い合わせ】

国土交通省 水管理・国土保全局 治水課

〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎3号館1階

TEL: 03-5253-8452